

エコアクション21
2019 年度版
環境活動レポート

《活動期間 2019 年 5 月～2020 年 4 月》

株式会社 リサイクルクリーン

大川工場と船明ダム湖



経営理念

リサイクルクリーンは、顧客満足、順法の精神、資源を守る心を誇りにし、あらゆる環境変化のなかで常に進化し続ける企業集団を目指します。

- ・ 顧客満足

常にお客様が喜んでくれるサービスを考え提供し続ける。

- ・ 遵法の精神

関係法令を遵守する。法律に背かない。

- ・ 資源を守る心

循環型社会構築へ向けて、リサイクル率の向上。

埋立、単純焼却の廃止

- ・ 常に進化し続ける企業集団

あらゆる変化に柔軟に対応する。

全社員が共に学習し、自らの能力を発揮する。

＜制定日 平成17年 5 月 1 日＞

静岡県浜松市天竜区二俣町二俣41

株式会社 リサイクルクリーン

代表取締役 藤城 太郎

1 組織の概要

① 会社概要

会社名 株式会社 リサイクルクリーン
 代表取締役 藤城 太郎
 本社所在地 〒431-3314
 静岡県浜松市天竜区二俣町二俣 41
 TEL 053-925-1366 FAX 053-925-6030
 HP <http://www.recycle-clean.co.jp>



環境管理責任者 品質保証部長 栗田 秀男
 本部事務局長 営業部主任 鈴木 高史
 連絡先 TEL 053-925-1366 FAX 053-925-6030

② 事業の概要

事業内容 一般廃棄物（市町村委託、事業系）の収集運搬業、産業廃棄物の収集運搬・中間処理、RPF 固形燃料の製造業、不動産の売買・仲介及び賃貸業、建築工事・土木工事・建物解体工事業、再生資源卸売業、清掃業、再生骨材の販売、自動車小売業、損害保険代理業

設立 昭和 62 年(1987 年)3 月 27 日
 資本金 8,200 万円
 年間売上 60.6 億円(2019 年度)
 従業員 308 名(2020 年 6 月末日現在)
 敷地面積(全社) 66,445 m²
 延床面積(全社) 17,641 m²

③ 事業規模

廃棄物処理量 一般廃棄物収集運搬量	5,654t/年(2019 年度)
産業廃棄物収集運搬量	69,286t/年(2019 年度)
感染性廃棄物収集運搬量	144t/年(2019 年度)
産業廃棄物中間処分量	81,609t/年(2019 年度)

④ 許可及び届出一覧

A 事業の範囲（許可行政区域、許可番号、有効期限）

表4-1

許可種類	県・市・町名	許可番号	許可年月日	有効期限
産業廃棄物処分業	静岡県	02222000340	H27.10.13	R4.10.12
	浜松市	06321000340	H27.10.9	R4.10.8
産業廃棄物収集運搬業	静岡県	02202000340	H27.12.2	R4.12.1
	愛知県	02300000340	R2.9.2	R7.5.18
	三重県	02400000340	H28.11.17	R3.11.16
	富山市	08500000340	H30.9.17	R5.9.16
	福井県	01801000340	H29.6.8	R4.6.7
	山梨県	01900000340	H31.2.1	R6.1.31

許可種類	県・市・町名	許可番号	許可年月日	有効期限
産業廃棄物収集運搬業	岐阜県	02100000340	H31.2.12	R6.2.11
	神奈川県	01400000340	H31.3.11	R6.3.10
	長野県	2009000340	R1.5.27	R6.5.26
特別管理産業廃棄物 収集運搬業	静岡県	02251000340	H27.12.2	R4.12.1
	愛知県	02350000340	H30.6.28	R5.6.9
一般廃棄物収集運搬業	浜松市	第33号	H31.4.1	R3.3.31
	磐田市	第18-01-025号	R2.4.1	R4.3.31
	袋井市	袋井市一廃許可第24号	R2.4.1	R4.3.31
	掛川市	掛環ご許可第 9-2 号 31 号	R1.9.22	R39.21
	御前崎市	御市環許可第 41-9 号	R2.1.29	R4.1.28
	藤枝市	藤環指第 1-19 号	R2.4.1	R4.3.31
	森町	森生還許可第10号	R2.4.1	R4.3.31

※色付きの枠は優良認定の許可証です

B 産業廃棄物処分業(中間処理)詳細

表4-2

品目名	許可施設設置工場(処理方法)							
	第一	第二	大川	袋井	袋井 RPF	岡部	磐田	桜台
廃プラスチック類	破碎	破碎	破碎 圧縮 溶融固化	破碎 圧縮 切断 溶融固化	固形燃料製造	破碎 圧縮		破碎 破碎・成形
紙くず	破碎	破碎	破碎 圧縮 溶融固化	破碎 圧縮	固形燃料製造	破碎 圧縮		破碎 破碎・成形
木くず	破碎	破碎	破碎 溶融固化	破碎 圧縮	固形燃料製造	破碎 圧縮		破碎 破碎・成形
繊維くず	破碎	破碎	破碎 圧縮 溶融固化	破碎 圧縮 切断	固形燃料製造	破碎 圧縮		破碎 破碎・成形
金属くず	破碎	破碎	破碎	破碎 圧縮		破碎 圧縮		破碎
ガラス・コンクリート・ 陶磁器くず	破碎	破碎	破碎	破碎		破碎	破碎	破碎
がれき類	破碎	破碎	破碎	破碎		破碎	破碎	破碎
汚泥			※溶融固化				改質固化	
動植物性残さ			溶融固化		固形燃料製造			

※大川工場の汚泥は日本たばこ産業のたばこカプセルに限る。磐田工場の汚泥は建設汚泥に限る。

C 産業廃棄物処理能力一覧表

表4-3

事業所	施設名	品目(廃棄物の種類) 単位t/日								
		廃プラ	紙くず	木くず	繊維	金属	ガラス陶	がれき	汚泥	動残
第一	破碎	4.2	2.94	4.64	3.09	6.99	18.14	4.97		
	破碎						17.6			
第二	破碎	4.78	5.13	8.19	13.6	12.56	39.49	15.01		
大川	圧縮	107.68	116.8		116.8					
	破碎	68.9	137.8	160.8	137.8	459.4	344.6	413.5		
	溶融固化	26.2	28.1	24.7	27.6				※25.2	25.2
桜台	破碎	24.46	7.18	22.09	5.13	44.48	68.2	88.21		
	溶融固化									
磐田	破碎						108.8	256.0		
	改質固化								9.93	
岡部	圧縮	148.16	97.68	95.2	87.44	79.44				
	破碎	45.7	45.7	70.6	95.5	124.6	207.6	481.6		
	破碎	3.85	3.24	4.12	5.15	5.34	10.86			
袋井	圧縮	148.16	97.68		87.44	79.44				
	破碎	69.3	69.3	107.0	144.8	188.9	314.8	730.3		
	破碎	21.7	30.4	63.8	36.4	59.3	138.3	229.2		
	溶融固化	0.33								
	切断	16.30			5.80					
袋井 RPF	固形燃料製造	169.92	168.24	168.48	168.48					

※大川工場の汚泥は日本たばこ産業のたばこカプセルに限る。

D 登録車両台数表(利用目的別車両保有台数一覧)

表4-4

車体の形状	積載量	登録台数	使用制限
キャブオーバ (移動式クレーン車)	10トン	1台	なし
	6トン	4台	なし
	4トン	36台	なし
キャブオーバ (平ボディ車)	2～4トン	6台	なし
	軽トラック	1台	なし
脱着装置付コンテナ専用車 (F ロール車)	10トン	5台	なし
	4トン(大型シャーシ)	5台	なし
	4トン	22台	なし
	2トン	9台	なし
コンテナフルトレーラ	10トン	1台	なし
ダンプ	10トン	3台	なし
	2～4トン	7台	なし
塵芥車(パッカー)	2～4トン	36台	なし
	浜松市委託車両	22台	なし
冷蔵冷凍車	2トン	1台	なし
ステーションワゴン他 (営業車)		17台	なし

E 行政区域別収集運搬取扱品目一覧

表4-5

許可品目	静岡県	愛知県	三重県	福井県	山梨県	長野県	岐阜県	神奈川県	富山市	浜松市	磐田市	袋井市	森町	掛川市	御前崎市	藤枝市
一般廃棄物										●	●	●	●	●	●	●
廃プラスチック類	●	●	●	●	●	●	●	●	●							
紙くず	●	●	●	●	●	●	●	●								
木くず	●	●	●	●	●	●	●	●								
金属くず	●	●	●	●	●	●	●	●								
ガラス・コンクリート・陶磁器くず	●	●	●	●	●	●	●	●								
がれき類	●	●	●	●	●	●	●	●								
繊維くず	●	●	●	●	●	●	●	●								
燃え殻	●															
汚泥	●															
廃油	●															
廃酸	●															
廃アルカリ	●															
動植物性残さ	●															
鋳さい	●															
ばいじん	●															
ゴムくず	●															
感染性産業廃棄物	●	●														
引火性廃油	●															

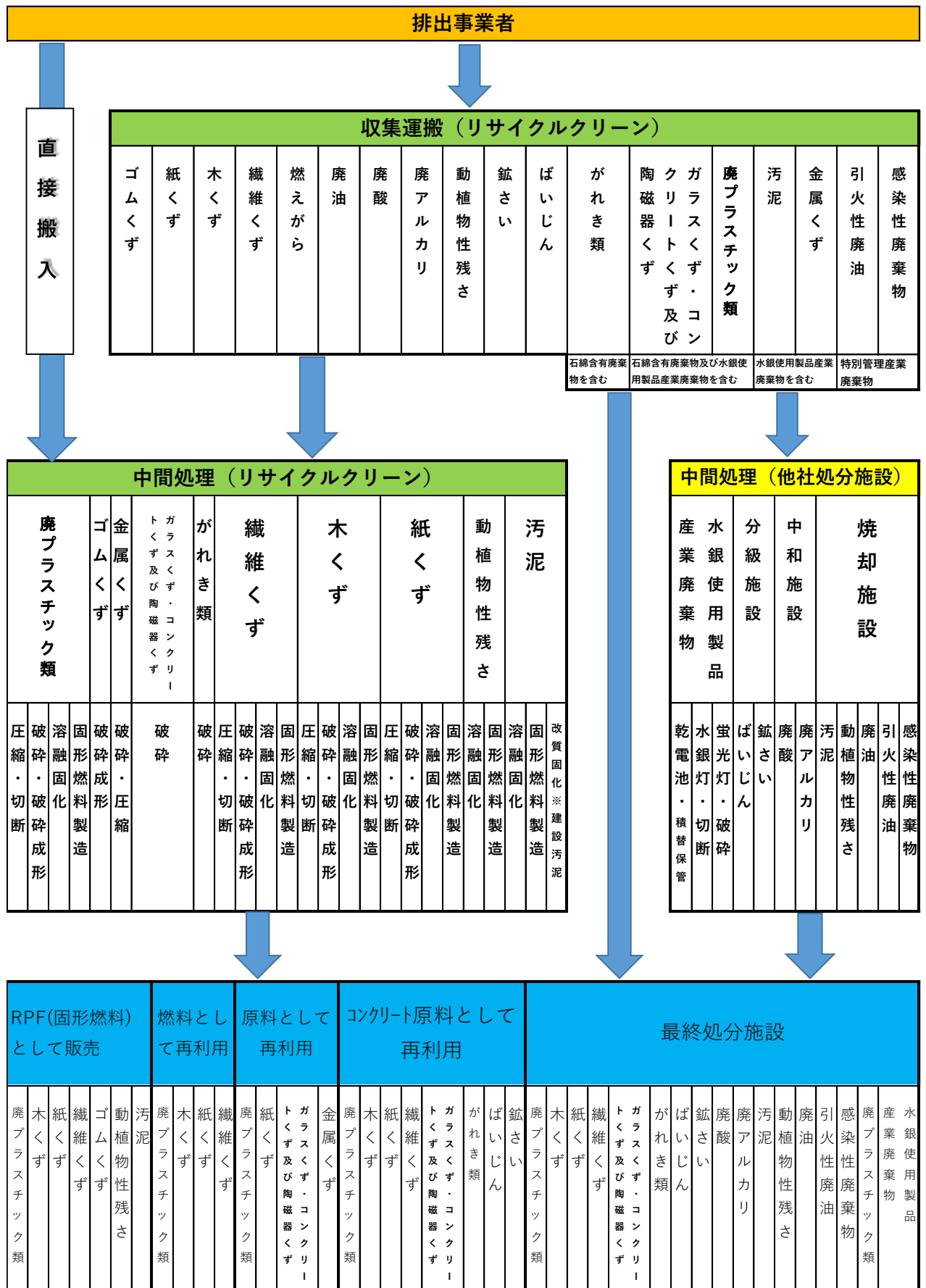
※廃プラスチック類～ゴムくず(青の塗りつぶし)＝産業廃棄物

※感染性産業廃棄物、引火性廃油(黄色の塗りつぶし)＝特別管理産業廃棄物

営業範囲は静岡県と愛知県東部(三河エリア)となります



⑤産業廃棄物処理工程図



2 レポートの対象期間、発行日及び対象範囲

① レポート対象期間及び発効日

対象期間 2019年5月1日～2020年4月30日 発行日 2020年7月20日

② 対象範囲（対象の事業所）

第一工場 〒431-3314 静岡県浜松市天竜区二俣町二俣 42-1 敷地面積 5,164 m ² 延床面積 1,105 m ² 従業員数 26 名 所属車両台数 19 台 廃棄物処理量 4,900t/年(2018 年度) 処分方法: 破碎、圧縮
第二工場 〒431-3314 静岡県浜松市天竜区二俣町二俣 20-1 敷地面積 2,693 m ² 延床面積 132 m ² 従業員数 4 名 廃棄物処理量 2,578t/年(2018 年度) 処分方法: 破碎
大川工場 〒431-3755 静岡県浜松市天竜区大川 457-15 敷地面積 9,606 m ² 延床面積 3,250 m ² 従業員数 65 名 所属車両台数 47 台 廃棄物処理量 10,538t/年(2018 年度) 処分方法: 破碎、圧縮、溶融固化 *RPF生産工場
磐田工場 〒438-0002 静岡県磐田市大久保 729-1 敷地面積 6,580 m ² 延床面積 — 従業員数 9 名 所属車両台数 3 台 廃棄物処理量 29,186t/年(2018 年度) 処分方法: 破碎、改質固化 *再生砕石販売施設
岡部工場 〒421-1102 静岡県藤枝市岡部町宮島 963 敷地面積 9,606 m ² 延床面積 3250 m ² 従業員数 37 名 所属車両台数 19 台 廃棄物処理量 8,668t/年(2018 年度) 処分方法: 破碎、圧縮
袋井工場 〒437-0011 静岡県袋井市村松 1553-9 敷地面積 19,372 m ² 延床面積 4,594 m ² 従業員数 36 名 所属車両台数 13 台 廃棄物処理量 23,296t/年(2018 年度) 処分方法: 破碎、圧縮、切断、溶融固化
袋井 RPF 工場 〒437-0011 静岡県袋井市村松 1553-9 延床面積 ※1853 m ² (袋井工場敷地内に新設) 従業員数 8 名 廃棄物処理量 17,261t/年(2018 年度) 処理方法: 固形燃料製造(破碎 圧縮固化)
桜台工場 〒431-1104 静岡県浜松市西区桜台 5-108-4 敷地面積 6,260 m ² 延床面積 2,250 m ² 従業員数 32 名 所属車両台数 15 台 廃棄物処理量 10,168t/年(2018 年度) 処分方法: 破碎、破碎・成形 *RPF生産工場
浜松営業所 〒431-3115 静岡県浜松市東区西ヶ崎 1001-1 敷地面積 3,412 m ² 延床面積 2,197 m ² 従業員数 29 名 所属車両台数 19 台 一般廃棄物収集運搬 4,585t/年(平成 29 年度) ダンボール等リサイクル資源物の収集
協同センター 〒434-0015 静岡県浜松市浜北区於呂 4000-1 敷地面積 1,367 m ² 延床面積 21 m ² 従業員数 3 名 所属車両台数 1 台 新車中古車販売
管理・不動産部 〒431-3314 静岡県浜松市天竜区二俣町二俣 1534-10 敷地面積 324.27 m ² 延床面積 55.48 m ² 従業員数 6 名 所属車両台数 3 台
営業部、事務部 〒431-1103 静岡県浜松市天竜区二俣町二俣 41(第一工場敷地内) 従業員数 29 名 所属車両台数 19 台
営業部解体班 〒431-1103 静岡県浜松市天竜区二俣町二俣 41(第一工場敷地内) 従業員数 14 名 所属車両台数 11 台 解体工事の施工

3 環境方針

環境方針

当社は、静岡県企業及び市町村等を中心に多数の顧客を有し、一般廃棄物、産業廃棄物の収集運搬・中間処理及びリサイクル関連事業を営んでいます。これらの活動を行う企業として、「地球環境の保全」が人類共通の課題であることを認識し、企業活動のあらゆる面で「地球環境保護」に配慮した事業活動を展開します。

- 1 事業活動に係わる環境影響を認識し、技術的・経済的に可能な範囲で環境目標及び環境活動計画を定め、環境汚染の予防を推進するとともに、環境マネジメントシステムの継続的改善を図る
- 2 環境関連法規及び当社が同意したその他の要求事項を遵守するとともに、必要に応じて自主管理基準を設定し、維持管理を行う。
- 3 当社は、環境方針を達成するために、「守ろう環境、生かそう資源のリサイクル」をスローガンに、事業活動が与える環境影響の中で、次の項目を重点に環境マネジメント活動を行い、定期的に見直しを実施する。
 - 1) 事業活動で生じる二酸化炭素排出量及び水使用量の削減に取り組みます。
 - ・ 省エネ、省資源活動を推進します。
 - 2) 循環型社会構築に寄与する為、受託した廃棄物の再資源化に取り組み、リサイクル率向上に努めます。数値目標を定め、継続的改善を図り、その結果を開示いたします。
 - 3) 地域環境保全に有効な、森林保護育成を目指し、ボランティア活動を実践します。
- 4 環境教育の充実を図り、全員参加で取組む。(全従業員及び当社のために働く全ての人に環境方針を周知する)
- 5 周辺美化運動等により地域環境保全活動に積極的に取組み、住民とのコミュニケーションを大切にする。

制定日平成 23 年 5 月 1 日

改定日平成 26 年 5 月 23 日

改定日平成 29 年 5 月 1 日

株式会社リサイクルクリーン

代表取締役 藤城 太郎

実施体制

当社はエコアクション21環境経営システムを構築、運用、維持し、環境への取組を実施するために効果的な実施体制を構築する。実施体制は「(株)リサイクルクリーン エコアクション21組織図」に示し、各自の役割、責任及び権限を定め全従業員に周知する。

*社長

- ① 環境方針を策定する。
- ② 責任者を選任するとともに、各要員、所定の技能・技術、資金の経営資源を確保する。
- ③ エコアクション21環境経営システム推進体制を策定する。
- ④ 環境経営システムの見直しを行う。
- ⑤ 緊急事態発生時における対応処理の統括的な指揮をとる。
- ⑥ 「環境マネジメントマニュアル」、「全社環境目標」、「全社/部門活動計画」を承認する。
- ⑦ 「全社環境目標」、「全社/部門環境活動計画」の定期策定、見直しを指示し承認する。
- ⑧ 内部監査チームリーダー/内部監査委員を任命し、内部環境監査の実施を指示する。

*環境管理責任者（副環境管理責任者）

- ① エコアクション21:2009年版（産業廃棄物処理業者向けガイドライン）規格の要求事項に適合した環境経営システムを確立、実施、維持及び管理を行う。
- ② 見直し及び環境経営システムの改善の基礎として、社長に環境経営システムの実績を報告する（全社エコアクション21推進会議を毎月一回開催する）。
- ③ 「環境への負荷の自己チェック」を策定する。
- ④ 「環境への取組の自己チェック」を策定する。
- ⑤ 「法規制等登録一覧」を策定する。
- ⑥ 「全社環境目標」及び「全社環境活動計画」を策定し、達成の責任を持つとともに、その項目の監視、測定及び不適合の場合の是正及び予防処理を行う。
- ⑦ 部門長が策定した部門の「部門環境活動計画」を審査する。
- ⑧ 社内外のコミュニケーションの総括的な責任を負う。
- ⑨ 「環境マネジメントマニュアル」を作成するとともに、環境経営システムの各文書の整備を指示する
- ⑩ 関連会社への周知、協力の要請等を行う。
- ⑪ 緊急事態発生時における対応処置の指揮をとる。（社長が不在の時は、責任者が代行する）。
- ⑫ 全社に係る環境教育訓練の計画立案及び管理者教育を実施する。

*本部事務局長（副本部事務局長）

- ① 環境経営システム文書の作成、管理を行う。
- ② 環境経営システムの構築及び維持管理に関する事務局、並びに責任者の補佐を行う。
- ③ 「全社エコアクション21推進会議議事録」を作成する。

*部門長

- ① 責任者が策定する「環境への負荷の自己チェック」の調査に協力する。
- ② 責任者が策定する「環境への取組の自己チェック」の調査に協力する。
- ③ 環境関連法規等の対応を実施する。
- ④ 「部門環境活動計画」を策定し、達成の責任を持つとともに、その項目の監視、測定及び不適合の場合の是正及び予防処置を行う。
- ⑤ 部門エコアクション推進会議を月一回開催する。
- ⑥ 環境に関する一般教育（新入社員教育を含む）の計画立案及び教育を実施する。
- ⑦ 緊急事態への準備及び対応並びに緊急事態発生時における対応処理の指揮をとる。

＊内部環境監査チームリーダー（略称：内部環境監査 TL）

- ① 内部監査実施計画を作成し、社長の承認を得る。
- ② 内部監査結果を社長に報告する。
- ③ 指摘事項の是正処置結果を確認する。
- ④ 推進会議にて監査結果を報告する。

＊内部監査員

- ① 内部環境監査 TL の指示に従い、「内部環境監査チェックリスト」に基づき、監査を行う。

＊部門事務局リーダー（兼副部門長）

- ① 部門長を代行し、部門の環境経営システムを推進する。
- ② 緊急事態発生時における対応処置の指揮をとる。（部門長不在時は代行する）。

＊部門事務局サブリーダー

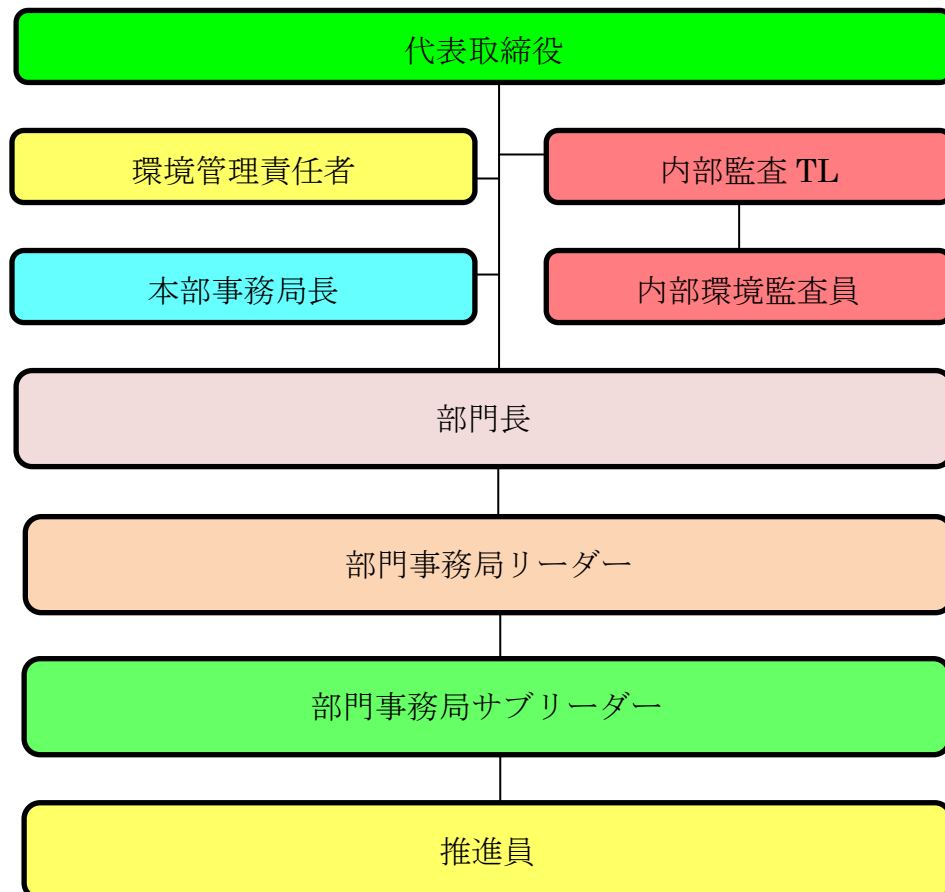
- ① 部門事務局リーダーを補佐し、部門の環境経営システムを推進する。
- ② 部門エコアクション21推進会議の議事録を作成する。

＊推進員

- ① 部門の環境経営システムを推進する。

エコアクション組織図

H28.5.1



4 環境目標

環境活動数値の中期3ヵ年目標①

◆項目の用語について◆

- ① 電気使用率 → 廃棄物出荷量1m³に対する電気使用量(工場が対象)
 ② ガソリン燃費 → 燃料1リットルあたりの車両の走行距離
 ③ 軽油燃費(車両) → 燃料1リットルあたりの車両の走行距離
 ④ 軽油燃費(重機) → 燃料1リットルあたりの重機の稼働時間

事業所	項目	2020 年度目標		2021 年度目標		2022 年度目標	
全社	電気使用量(営業事務)	97,393	kwh	97,198	kwh	97,004	kwh
	電気使用率(工場)※1	47.4	kWh/m ³	47.3	kWh/m ³	47.2	kWh/m ³
	ガソリン燃費	20.9	Km/L	21.0	Km/L	21.0	Km/L
	軽油燃費(車両)	5.1	Km/L	5.1	Km/L	5.2	Km/L
	軽油燃費(重機)	0.18	h/L	0.18	h/L	0.18	h/L
	LPG使用量※2	149.7	m ³	149.4	m ³	149.1	m ³
	CO ₂ 排出量	6,864	t	6,850	t	6,837	t
	水使用量※3	6,431	m ³	6,418	m ³	6,405	m ³
	リサイクル率	88.0	%	88.0	%	88.0	%
	森林保護活動	2	回	2	回	2	回
営業・事務	電気使用量	60,783	kwh	60,661	kwh	60,540	Kwh
	ガソリン燃費	21.1	Km/L	21.1	Km/L	21.1	Km/L
	LPG使用量	11.2	m ³	11.2	m ³	11.2	m ³
	CO ₂ 排出量	92.2	t	92.0	t	91.8	t
第一工場	電気使用率	8.5	kWh/m ³	8.5	kWh/m ³	8.4	kWh/m ³
	軽油燃費(車両)	3.8	Km/L	3.8	Km/L	3.9	Km/L
	軽油燃費(重機)	0.20	h/L	0.20	h/L	0.21	h/L
	CO ₂ 排出量	478	t	477	t	476	kg
	水使用量	1014	m ³	1012	m ³	1010	m ³
	リサイクル率	74.6	%	74.6	%	74.6	%
第二工場	電気使用率	16.9	kWh/m ³	16.8	kWh/m ³	16.8	kWh/m ³
	軽油燃費(重機)	0.17	h/L	0.17	h/L	0.17	h/L
	LPG使用量	0.7	m ³	0.7	m ³	0.7	m ³
	CO ₂ 排出量	21	t	21	t	21	t
	水使用量	60	m ³	60	m ³	60	m ³
	リサイクル率	74.9	%	74.9	%	74.9	%
大川工場	電気使用率	77	kWh/m ³	77	kWh/m ³	76	kWh/m ³
	軽油燃費(車両)	6.4	Km/L	6.4	Km/L	6.4	Km/L
	軽油燃費(重機)	0.19	h/L	0.19	h/L	0.20	h/L
	LPG使用量	7.5	m ³	7.5	m ³	7.5	m ³
	CO ₂ 排出量	1066	t	1065	t	1065	t
	リサイクル率	75.6	%	75.6	%	75.6	%

環境活動数値の中期3ヵ年目標②

事業所	項目	2020 年度目標		2021 年度目標		2022 年度目標	
磐田工場	電気使用率	1.3	kWh/m3	1.3	kWh/m3	1.3	kWh/m3
	軽油燃費(車両)	3.2	Km/L	3.2	Km/L	3.3	Km/L
	軽油燃費(重機)	0.1	h/L	0.1	h/L	0.1	h/L
	LPG使用量	1.1	m3	1.1	m3	1.1	m3
	CO2 排出量	369	t	368	t	367	t
	水使用量	831	m3	832	m3	833	m3
岡部工場	電気使用率	25.0	kWh/m3	25.0	kWh/m3	24.9	kWh/m3
	軽油燃費(車両)	5.5	Km/L	5.5	Km/L	5.6	Km/L
	軽油燃費(重機)	0.2	h/L	0.2	h/L	0.2	h/L
	LPG使用量	7.0	m3	7.0	m3	7.0	m3
	CO2排出量	537	t	534	t	531	t
	リサイクル率	75.6	%	75.6	%	75.6	%
袋井工場	電気使用率	32.4	kWh/m3	32.3	kWh/m3	32.2	kWh/m3
	軽油燃費(車両)	5.4	Km/L	5.4	Km/L	5.5	Km/L
	軽油燃費(重機)	0.2	h/L	0.2	h/L	0.2	h/L
	LPG使用量	50	m3	50	m3	50	m3
	CO2 排出量	770.5	t	768.9	t	767.4	t
	水使用量	975	m3	975	m3	975	m3
	リサイクル率	74.3	%	74.3	%	74.3	%
袋井RPF工場	電気使用率	237	kWh/m3	237	kWh/m3	236	kWh/m3
	軽油燃費(重機)	0.2	h/L	0.2	h/L	0.2	h/L
	LPG 使用量	9.5	m3	9.5	m3	9.5	m3
	CO2 排出量	2504	t	2503	t	2502	t
	水使用量	2,100	m3	2,100	m3	2,100	m3
桜台工場	電気使用率	21.0	kWh/m3	21.0	kWh/m3	20.9	kWh/m3
	軽油燃費(車両)	5.7	Km/L	5.7	Km/L	5.8	Km/L
	軽油燃費(重機)	0.28	h/L	0.28	h/L	0.28	h/L
	LPG 使用量	48.3	m3	48.2	m3	48.1	m3
	CO2 排出量	448	t	448	t	447	t
	水使用量	765	m3	765	m3	765	m3
	リサイクル率	75.7	%	75.7	%	75.7	%
浜松営業所	電気使用率	38.9	kWh/m3	38.8	kWh/m3	38.7	kWh/m3
	軽油燃費(車両)	4.5	Km/L	4.5	Km/L	4.6	Km/L
	軽油燃費(重機)	0.35	h/L	0.35	h/L	0.36	h/L
	LPG使用量	13.0	m3	13.0	m3	13.0	m3
	CO2 排出量	473	t	472	t	471	t
	水使用量	420	m3	419	m3	418	m3

環境活動数値の中期3ヵ年目標③

事業所	項目	2020 年度目標		2021 年度目標		2022 年度目標	
協同C	電気使用量	33,490	kwh	33,423	kwh	33,356	kwh
	CO2 排出量	16	t	16	t	16	t
	水使用量	104	m3	104	m3	104	m3
不動産部	電気使用量	14,693	kwh	14,546	kwh	14,401	kwh
	ガソリン使用量	25.3	Km/L	25.4	Km/L	25.5	Km/L
	CO2 排出量	10	t	10	t	9	t
	水使用量	28	m3	28	m3	28	m3
解体班	ガソリン燃費	13.0	Km/L	13.1	Km/L	13.2	Km/L
	軽油燃費(重機)	6.1	Km/L	6.1	Km/L	6.2	Km/L
	軽油燃費(重機)	0.17	h/L	0.17	h/L	0.17	h/L
	CO2 排出量	150	t	150	t	149	t

<二酸化炭素排出量算出係数>

電気→0.476 (kg-CO2/kWh) ←(株)中部電力平成 28 年度調整後排出係数

ガソリン→2.322(kg-CO2/MJ) 軽油→2.619(kg-CO2/MJ) LPG→6.214(kg-CO2/MJ)

Solar power

太陽光パネル、順調に稼働中



都田発電所 1



都田発電所 2



都田発電所北側



袋井工場



袋井 RPF 工場



桜台工場

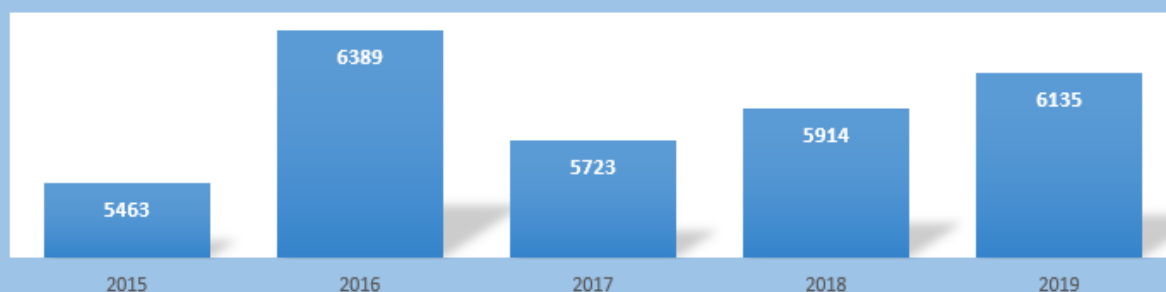
発電量、二酸化炭素削減量は当社ホームページにてリアルタイムでご覧いただけます
ご来訪をお待ちしております。

こちらから <http://www.recycle-clean.co.jp/>

5 環境活動計画の内容と取組結果の評価①

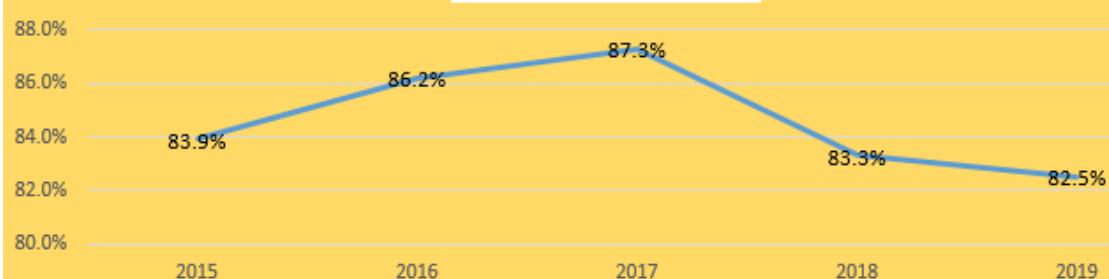
環境活動計画の内容	評価	次年度
1 二酸化炭素総排出量の削減 (ア) 燃費の向上 エコドライブの実践、 作業効率アップ。 解体現場重機等の燃費向上。 (イ) 電力使用量の削減 日中の点灯照明削減。 残業の削減。 空調温度設定の適正化。	① アイドリングストップの実践 作業手順を工夫し効率化 ② 日中の照明器点灯数を調整した 労務管理申請書の整備と運用に より残業時間の把握をした。	継続 継続

二酸化炭素排出量の推移



2 廃棄物のリサイクル率向上と維持	(目標 88%に対し実績 83.3%)	
① 従業員のコスト意識の向上 埋立処分及び焼却処分原価の周知により、原価意識の向上を図る。	① リサイクル率の一覧表を作成し、意識の向上に努めた。	継続
② 有価物の選別強化 選別ラインマニュアルの見直し。 人員配置の再考。	② 人事異動、役割変更を行い、適正化を進めた。	継続
③ リサイクル対象品の再確認	③ RPF 原料のパフレット等を作成し周知に努めた。	継続
④ 写真、実物などで具体的に対象品を示すことで認知度を向上させる。		
⑤ 分別解体によるリサイクル率 UP		
⑥ 不適合品の返却	⑥ 工場、営業担当が連携し処理	継続

リサイクル率の推移



5 環境活動計画の内容と取組結果の評価②

3 総排水量の削減

① 節水の呼びかけ。

会議、朝礼時の周知

① 会議、朝礼等で呼びかけを行った

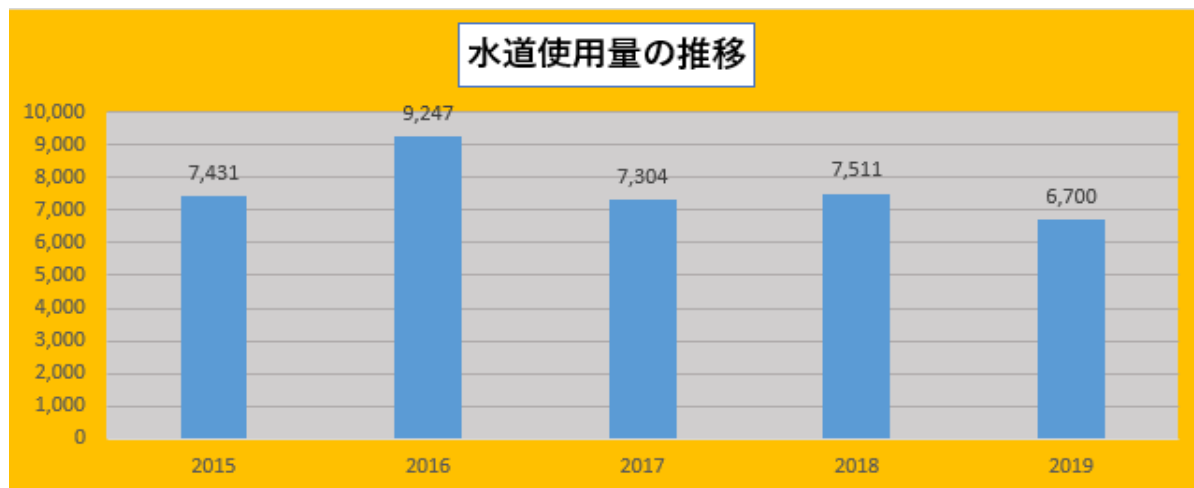
継続

② 具体的な手段、計画

散水計画の立案と実施

② 空気乾燥期に計画的に散水

継続



4 森林保護育成活動の推進

① 育成活動実行計画策定

本年度実施計画、秋に1回、春に1回実施する・

① 年2回実施 5名参加

(春雨天の為幹事のみ)

(秋は17名参加11/2実施)

継続

② 参加の呼びかけ

② 朝礼、社内報等で周知。

継続



「森づくり C.S.R.トラスト(静岡県西部森づくり C.S.R.協働推進協議会)」に加盟をして、
「プレンティアの森」を主催しています。(年2回実施)

6 環境活動数値の実績と評価

* ○＝計画通り ×＝未達成

表6—1

事業所	項目	2019 年度目標		2019 年度実績		評価
全社	電気使用量(営業事務)	113,766	Kwh	94,684	kwh	○
	電気使用率	46.1	kwh/t	42.6	kwh/t	○
	トータル購入電気量	7,482,839	Kwh	6,160,141	Kwh	○
	ガソリン燃費	20.5	km/L	20.9	km/L	○
	軽油燃費(車両)	5.0	km/L	5.1	km/L	○
	軽油燃費(重機)	0.17	h/L	0.18	h/L	○
	LPG使用量	200	m3	125	m3	○
	CO2 排出量	6,984	t	6,135	t	○
	カーボンオフセット	(プレンティアの森)		2	t	
	差引後排出量			6,133	t	
	リサイクル率	88.0	%	82.5	%	×
	水使用量	8,017	m3	7,511	m3	○
	森林保護活動	2	回	2	回	○
	グリーン購入法の推進	グリーン購入の推進と再生材(砕石、木製品等)の使用			随時	○
	環境に配慮した施工	工事施工時低騒音型重機、排ガス規制対応重機を使用			随時	○

部門別の環境活動数値の実績と評価①

表6—2

事業所	項目	2019 年度目標		2019 年度実績		評価	二酸化炭素排出量シェア
営業・事務所	電気使用量	64,373	kwh	57,889	kwh	○	営業・事務CO2排出量品目別シェア
	ガソリン燃費	20.1	km/L	21.1	km/L	○	
	LPG使用量	20.6	m3	11.2	m3	○	
	CO2排出量	95	t	88	t	○	
	森林保護活動	2	回	2	回	○	
第一工場	電力使用率	7.9	Kwh/t	7.9	Kwh/t	○	第一工場CO2排出量品目別シェア
	軽油燃費(車両)	4.0	km/L	3.8	km/L	×	
	軽油燃費(重機)	0.18	h/L	0.18	h/L	○	
	CO2 排出量	518	t	452	t	○	
	リサイクル率	75.0	%	65.5	%	×	
	水道使用量	989	m3	1,014	m3	×	
	森林保護活動	2	回	2	回	○	
第二工場	電力使用率	9.0	Kwh/t	11.8	Kwh/t	×	第二工場CO2排出量品目別シェア
	軽油燃費(重機)	0.19	h/L	0.18	h/L	×	
	LPG使用量	0.7	m3	0	m3	○	
	CO2 排出量	63.7	kg	68.0	kg	×	
	リサイクル率	68.0	%	59.8	%	×	
	水使用量	298	m3	226	m3	○	
	森林保護活動	2	回	2	回	○	

部門別環境活動数値の実績と評価②

* ○＝計画通り ×＝未達成

表6-3

事業所	項目	2019 年度目標	2019 年度実績	評価	二酸化炭素排出量シェア
大川工場	電気使用率	54.0 Kwh/t	60.4 Kwh/t	×	大川工場CO2排出量品目別シェア
	軽油燃費(車両)	6.4 km/L	6.4 km/L	○	
	軽油燃費(重機)	0.17 h/L	0.19 h/L	○	
	LPG使用量	7.5 m3	3.6 m3	○	
	CO2排出量	1,055 t	941 t	○	
	リサイクル率	69.0 %	57.1 %	×	
	森林保護活動	2 回	2 回	○	
磐田工場	電気使用率	1.5 Kwh/t	1.4 Kwh/t	○	磐田工場CO2排出量品目別シェア
	軽油燃費(車両)	3.2 km/L	3.2 km/L	○	
	軽油燃費(重機)	0.10 h/L	0.09 h/L	×	
	LPG使用量	3.6 m3	1.9 m3	○	
	CO2 排出量	276 t	314 t	×	
	水道使用量	928 m3	965 m3	×	
	森林保護活動	2 回	2 回	○	
岡部工場	電気使用率	27.6 Kwh/t	20.2 Kwh/t	○	岡部工場CO2排出量品目別シェア
	軽油燃費(車両)	5.5 km/L	5.5 km/L	○	
	軽油燃費(重機)	0.22 h/L	0.20 h/L	×	
	LPG使用量	10.4 m3	8.4 m3	○	
	CO2排出量	492 t	455 t	○	
	リサイクル率	70.0 %	66.3 %	×	
	森林保護活動	2 回	2 回	○	
袋井工場	電力使用率	40.0 Kwh/t	32.4 Kwh/t	○	袋井工場CO2排出量品目別シェア
	軽油燃費(車両)	4.9 km/L	5.4 km/L	○	
	軽油燃費(重機)	0.20 h/L	0.19 h/L	×	
	LPG使用量	32.9 m3	30.1 m3	○	
	CO2 排出量	814 t	698 t	○	
	リサイクル率	67.0 %	57.6 %	×	
	水道使用量	920 m3	975 m3	×	
	森林保護活動	2 回	2 回	○	
袋井RPF工場	電気使用率	277 Kwh/t	237 Kwh/t	○	RPF工場CO2排出量品目別シェア
	軽油燃費(重機)	0.22 h/L	0.21 h/L	×	
	LPG使用量	44 m3	6.4 m3	○	
	CO2 排出量	2,522 t	1,926 t	○	
	リサイクル率	100 %	100 %	○	
	水道使用量	3,600 m3	2,196 m3	○	
	森林保護活動	2 回	2 回	○	

部門別環境活動数値の実績と評価③

* ○＝計画通り ×＝未達成

表6-4

事業所	項目	2019 年度目標	2019 年度実績	評価	二酸化炭素排出量シェア
桜台工場	電気使用率	65.1 Kwh/t	26.1 Kwh/t	○	
	軽油燃費(車両)	5.7 km/L	5.7 km/L	○	
	軽油燃費(重機)	0.22 h/L	0.28 h/L	○	
	LPG使用量	48.3 m3	47.7 m3	○	
	CO2排出量	503 t	456 t	○	
	リサイクル率	68.0 %	62.3 %	×	
	水道使用量	870 m3	765 m3	○	
	森林保護活動	2 回	2 回	○	
浜松営業所	電気使用量	17.1 Kwh/t	29.4 Kwh/t	×	
	軽油燃費(車両)	4.3 km/L	4.5 km/L	○	
	軽油燃費(重機)	0.35 h/L	0.34 h/L	×	
	LPG使用量	15.7 m3	15.3 m3	○	
	CO2 排出量	461 t	447 t	○	
	水道使用量	289 m3	437 m3	×	
	森林保護活動	2 回	2 回	○	
協同センター	電気使用量	34,700 kwh	32,182 kwh	○	
	CO2排出量	13.7 t	15.2 t	×	
	水道使用量	95 m3	102 m3	×	
	森林保護活動	2 回	2 回	○	
不動産部	電気使用量	14,693 kwh	4,613 kwh	○	
	ガソリン燃費	25.3 km/L	24.7 km/L	×	
	CO2排出量	9.5 t	4.7 t	○	
	水道使用量	28 m3	22 m3	○	
	森林保護活動	2 回	2 回	○	
解体班	ガソリン燃費	13.0 km/L	13.3 km/L	○	
	軽油燃費(車両)	6.1 km/L	6.3 km/L	○	
	軽油燃費(重機)	0.17 h/L	0.18 h/L	○	
	CO2排出量	150 t	97 t	○	
	森林保護活動	2 回	2 回	○	
	グリーン購入法の推進	グリーン購入の推進と再生材(砕石、木製品等)の使用		○	
	環境に配慮した施工	工事施工時低騒音型重機、排ガス規制対応重機を使用		○	

<二酸化炭素排出量算出係数>

電気→0.476(kg-CO2/kWh) ←(株)中部電力令和元年度調整後排出係数

ガソリン→2.322(kg-CO2/MJ) 軽油→2.619(kg-CO2/MJ) LPG→6.214(kg-CO2/MJ)

※2019年度の結果では、最重要課題のリサイクル率が未達成でした。(対前年もマイナス)。2年連続で数値が下がり続けています。袋井工場の埋立最終処分場への出荷が増えていることが原因であると思われますので、現状打開を進めてゆきたいと考えています。CO2 排出の観点では、営業実績が前年比110%を記録したにも関わらず、排出量前年比が101.5%に抑えられました。エネルギーの効率的活用ができたと考えています。その他の項目は、相変わらず部門ごとに凹凸があります。が、目標値との乖離は少なくなってきたと感じています。活動も8年目で運営についても習熟してきているように感じられます。

7. 環境関連法規への違反、訴訟等

確認日 2020年5月29日

対象環境関連法規	違 反	訴 訟
水質汚濁防止法(貯油タンク)	無	無
下水道法(第一、桜台、浜松営業所)	無	無
浄化槽法(上記以外の事業所)	無	無
騒音規制法(コンプレッサー、集塵機)	無	無
振動規制法(コンプレッサー)	無	無
悪臭防止法	無	無
高圧ガス保安法(LPG 利用事業所)	無	無
消防法(貯油タンク、RPF、BDF 等)	無	無
PCB 特別措置法	無	無
フロン排出抑制法	無	無
廃棄物の処理及び清掃に関する法律	無	無
家電リサイクル法	無	無
建設リサイクル法	無	無
自動車リサイクル法	無	無
オフロード法	無	無
NOx、PM法	無	無

* 関係官庁、当局による違反等の指摘は、過去3年間ありません。 事務局 鈴木高史

8. 住民協定への違反、訴訟等確認日

確認日 2020年5月29日

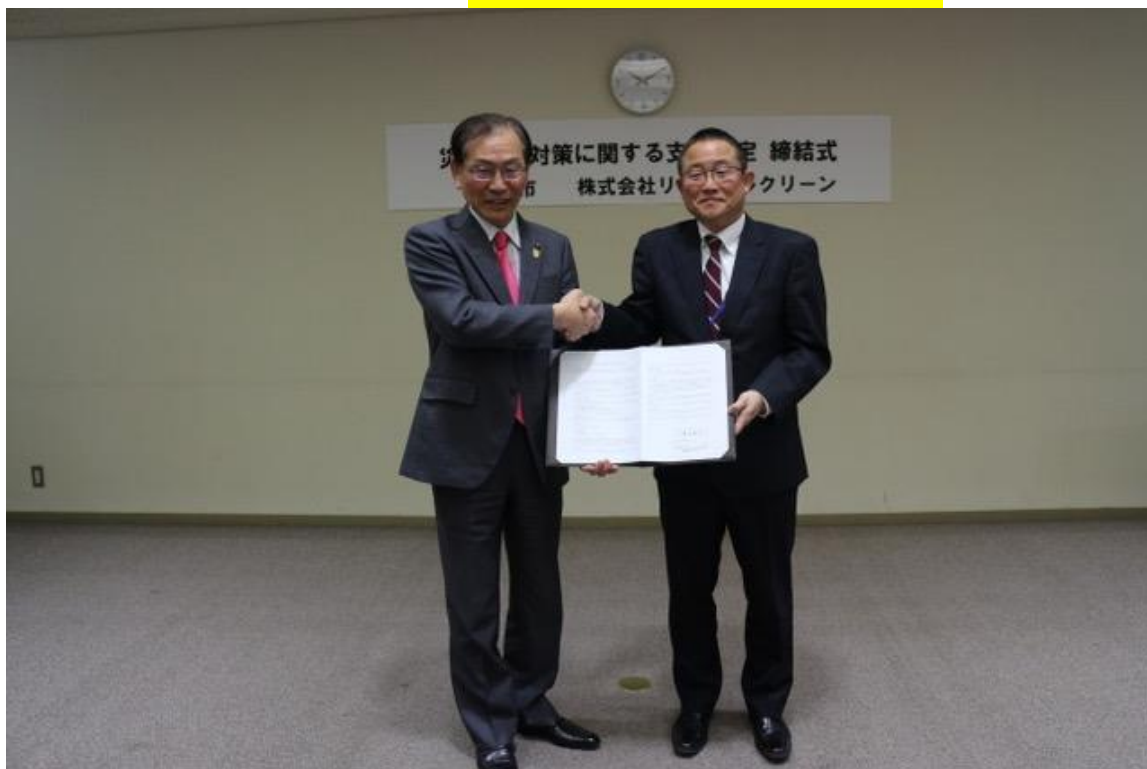
周辺住民、自治体等との協定		違 反	訴 訟
大川工場	天竜川水質保全に関する協定書(漁業組合)	無	無
岡部工場	環境保全協定書(藤枝市岡部町)	無	無
	町内会との協定書(藤枝市殿町)	無	無
	近隣地主との覚書	無	無
袋井工場	環境保全協定書(袋井市)	無	無
	自治会との協定書(袋井市村松西自治会)	無	無
桜台工場	環境保全協定書(和地地区自治会連合会)	無	無

* 地域住民との訴訟事件等は、過去3年間ありません。

事務局 鈴木高史

地域との交流・地域への貢献のページです。

令和2年1月16日に袋井市との間で「災害応急対策に関する支援協定」を締結しました。



原田袋井市長と弊社藤城代表取締役、協定締結時の写真です。

この協定は地震、津波、風水害、その他災害時に、弊社の袋井工場が袋井市の要請によって緊急事態の対応、支援を行うという協定です。

加藤長野市長より「災害支援活動の感謝状」をいただきました。



環境省から「台風19号に伴う河川の大氾濫による災害廃棄物処理」の支援要請があり、弊社からは4名の社員が2台の廃棄物回収車両で災害現場の支援に参加しました。

現地での活動期間中、被災された方々から温かい励ましの言葉やたくさんのお礼の言葉をいただき、感動で体が震えてしまったとのこと。本当にお世話になりました。

被災された方々が一日でも早く以前の暮らしを取り戻せるよう、こころよりお祈り申し上げます。

9 代表者による全体の評価と見直しの結果(マネージメントレビュー)

(株) リサイクルクリーン
12.代表者による全体の評価と見直し

EAR-13-01

平成31年度 第1回 マネージメントレビュー

マネージメントレビューの記録

作成:2020年6月25日

承認	確認	作成
		
<社長>	<責任者>	<事務局>

報告事項	担当	報告内容
a) 外部審査／内部監査の結果、法的要求事項及びその他の要求事項の順守評価の結果	責任者	2020年4月13日～4月16日かけて実施された内部監査に於いて31件の改善の余地を指摘された。今回の監査は監査チームリーダー変更後2回目の監査となり、監査制度向上のため事前に外部教育訓練を実施し監査を実施した。 今回は不適合となる点は指摘されなかったが前回同様に普段見落としている不備を気づかされたことは収穫である、各部門ごとの目標の評価に関しては毎月定期的に開いている「エコアクション推進会議」にて評価し改善点を話し合っているが日々の5S活動に関しては検証が不足していたことが確認できた。 また、袋井工場、大川工場の火災を教訓とした緊急時対応訓練の実施を強化したが確実に実施できていない事、掲示物、組織図等が最新版ない等も周知不足である。
b) 事故・苦情を含む外部の利害関係者からのコミュニケーション	"	事業に影響を及ぼす外部からのクレームは発生していないが、日々お客様からは貴重な情報をもたらされている、例をあえげれば車両の交通マナー、作業中の作業員の作業姿勢などであり、サービス業であり今後も教育訓練にてマナー向上に努めていかなくてはならない。
c) 環境活動計画の達成状況	職場長	今期の目標に対する結果は、リサイクル率88%は達成できていませんがその他の項目、電気使用量、車両・重機燃料消費、LPG、水道使用量に関しては目標数値を達成できており今後も継続して目標維持に努めて行きたい。 リサイクル率に関しては工場の設備新設も進んでおり今後の改善にきたいきつと来期はより結果が得られるものと確信している。また、選別精度の見直しもしており改善対策は実行しております。
D) 本マネジメントシステムに影響のある変化している周囲の状況	"	①最終処分場の値上げ。 ②世界的な経済活動低迷による廃棄物発生量の低下。 ③廃棄物処理がいどらみ法等関連法規の改正。 (例:フロン排出抑制法・石綿関連の大気汚染防止法) ④エコアクション21ガイドライン2019年度版対応へのマニュアル改定。

変更の必要性	決定及び処置	処置の検証(責任者)
① 環境方針 □要/☑不要	環境方針の変更なし	 2020 検証:平成 年7月2日
② 環境目標 □要/☑不要	環境目標の変更なし	 2020 検証:平成 年7月2日
③ EA21のその他の要素 □要/□不要	リサイクル率と処分料金比率が未達なので改善し、目標数字は継続とする。	 検証:平成 年7月2日

【備考】

保管 3年間

添付資料 環境目標及び環境活動計画の策定

(株) リサイクルクリーン
4.環境目標及び環境活動計画の策定

EAB-5-01

2019年度 E/A21 全社環境目標										改定 2019年度1月 改訂 改定 2019年度1月 改訂 改定 2019年度1月 改訂 改定 2019年度1月 改訂			承認 作成 作成		
全社環境目標										承認 作成 作成			承認 作成 作成		
年次別 項目	2019年度 目標	2019年度 目標				2020年度 目標				2021年度 目標					
		施策	担当	上層	下層	施策	担当	上層	下層	施策	担当	上層	下層		
2	二酸化炭素排出量の削減 平成28年度 実績 4,394.23t-CO ₂ 平成29年度の二酸化炭素排出 量の削減率(基準年:毎年Δ0.1 ~0.2%)削減する。	①節電活動を実施する	佐藤	佐藤	佐藤	①節電活動を導入する	佐藤	佐藤	佐藤	①節電活動を導入する	佐藤	佐藤	佐藤		
	②省エネ設備を推進する	佐藤	佐藤	佐藤	②省エネ設備を導入する	佐藤	佐藤	佐藤	②省エネ設備を導入する	佐藤	佐藤	佐藤			
	③EOP使用量を拡大する	佐藤	佐藤	佐藤	③EOP使用量を拡大する	佐藤	佐藤	佐藤	③EOP使用量を拡大する	佐藤	佐藤	佐藤			
3	産業廃棄物のリサイクル率向上 平成29年度はリサイクル率を 60%に向上し、毎年、継続的に上 げる。	①分別回収のみの削減 目標 115% (2018年度実績)	佐藤	佐藤	佐藤	①分別回収のみの削減 目標 Δ 81% (2019年度実績)	佐藤	佐藤	佐藤	①分別回収のみの削減 目標 Δ 62% (2020年度実績)	佐藤	佐藤	佐藤		
	②分別回収のみの削減 目標 115% (2018年度実績)	佐藤	佐藤	佐藤	②分別回収のみの削減 目標 Δ 81% (2019年度実績)	佐藤	佐藤	佐藤	②分別回収のみの削減 目標 Δ 62% (2020年度実績)	佐藤	佐藤	佐藤			
	③分別回収のみの削減 目標 115% (2018年度実績)	佐藤	佐藤	佐藤	③分別回収のみの削減 目標 Δ 81% (2019年度実績)	佐藤	佐藤	佐藤	③分別回収のみの削減 目標 Δ 62% (2020年度実績)	佐藤	佐藤	佐藤			
4	節水活動の削減 平成28年度 実績 8,242m ³ 平成29年度の水道使用量の削減 率(基準年:毎年Δ0.1%)削減する。	①節水活動を実施する	佐藤	佐藤	佐藤	①節水活動を実施する	佐藤	佐藤	佐藤	①節水活動を実施する	佐藤	佐藤	佐藤		
	②省エネ設備を推進する	佐藤	佐藤	佐藤	②省エネ設備を導入する	佐藤	佐藤	佐藤	②省エネ設備を導入する	佐藤	佐藤	佐藤			
	③EOP使用量を拡大する	佐藤	佐藤	佐藤	③EOP使用量を拡大する	佐藤	佐藤	佐藤	③EOP使用量を拡大する	佐藤	佐藤	佐藤			
5	グリーン購入法の推進 物品購入時、グリーンマークが あるものを、 ②コストとのバランスを考慮し購入 する。 ③再生材を使用する (建設工事、設計、木材等)	①物品購入時、グリーンマークが あるものを、 ②コストとのバランスを考慮し購入 する。 ③再生材を使用する (建設工事、設計、木材等)	佐藤	佐藤	佐藤	①物品購入時、グリーンマークが あるものを、 ②コストとのバランスを考慮し購入 する。 ③再生材を使用する (建設工事、設計、木材等)	佐藤	佐藤	佐藤	①物品購入時、グリーンマークが あるものを、 ②コストとのバランスを考慮し購入 する。 ③再生材を使用する (建設工事、設計、木材等)	佐藤	佐藤	佐藤		
	①物品購入時、グリーンマークが あるものを、 ②コストとのバランスを考慮し購入 する。 ③再生材を使用する (建設工事、設計、木材等)	佐藤	佐藤	佐藤	①物品購入時、グリーンマークが あるものを、 ②コストとのバランスを考慮し購入 する。 ③再生材を使用する (建設工事、設計、木材等)	佐藤	佐藤	佐藤	①物品購入時、グリーンマークが あるものを、 ②コストとのバランスを考慮し購入 する。 ③再生材を使用する (建設工事、設計、木材等)	佐藤	佐藤	佐藤			
	①物品購入時、グリーンマークが あるものを、 ②コストとのバランスを考慮し購入 する。 ③再生材を使用する (建設工事、設計、木材等)	佐藤	佐藤	佐藤	①物品購入時、グリーンマークが あるものを、 ②コストとのバランスを考慮し購入 する。 ③再生材を使用する (建設工事、設計、木材等)	佐藤	佐藤	佐藤	①物品購入時、グリーンマークが あるものを、 ②コストとのバランスを考慮し購入 する。 ③再生材を使用する (建設工事、設計、木材等)	佐藤	佐藤	佐藤			
6	環境に配慮した施工 工場建物の新築は必ず 環境に配慮した工法を使用する。	①騒音低減対策防止への配慮 ②低騒音型重機の使用 ③騒音規制対応重機の使用	佐藤	佐藤	佐藤	①騒音低減対策防止への配慮 ②低騒音型重機の使用 ③騒音規制対応重機の使用	佐藤	佐藤	佐藤	①騒音低減対策防止への配慮 ②低騒音型重機の使用 ③騒音規制対応重機の使用	佐藤	佐藤	佐藤		
	①騒音低減対策防止への配慮 ②低騒音型重機の使用 ③騒音規制対応重機の使用	佐藤	佐藤	佐藤	①騒音低減対策防止への配慮 ②低騒音型重機の使用 ③騒音規制対応重機の使用	佐藤	佐藤	佐藤	①騒音低減対策防止への配慮 ②低騒音型重機の使用 ③騒音規制対応重機の使用	佐藤	佐藤	佐藤			
	①騒音低減対策防止への配慮 ②低騒音型重機の使用 ③騒音規制対応重機の使用	佐藤	佐藤	佐藤	①騒音低減対策防止への配慮 ②低騒音型重機の使用 ③騒音規制対応重機の使用	佐藤	佐藤	佐藤	①騒音低減対策防止への配慮 ②低騒音型重機の使用 ③騒音規制対応重機の使用	佐藤	佐藤	佐藤			